



◆ 関川・保倉川の河川整備に関する 今後の進め方について議論を行いました。

【第22回 関川流域委員会 開催報告】

保倉川放水路に関する現地調査等の進捗状況、放水路周辺まちづくり検討の進め方、関川流域の治水安全度向上に向けて等について報告を行い、委員より意見をいただきました。

今後も、地域からの意見を十分に反映すべく、気候変動や流域治水、まちづくりに関する検討状況や、河川整備計画変更の内容について、委員会において議論して参ります。

開催日時： 令和4年3月29日（火）13時30分～15時30分

開催場所： 上越市民プラザ 2階 第1会議室

- 内 容：
- 前回委員会での指摘事項
 - 前回委員会からの進捗状況
 - 保倉川放水路周辺まちづくり検討の進め方について
 - 関川流域の治水安全度向上に向けて

＜関川流域委員会名簿＞ ※五十音順、敬称略

氏 名	所 属・役 職 等	備 考
阿部 利夫	上越市町内会長連絡協議会会長	
五十嵐 義宏	新潟日報社上越支社報道部長	
梅澤 圓了	新潟県災害救援機構理事長	
小熊 仁	高崎経済大学准教授	欠席
小池 俊雄	土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター センター長	委員長
小林 正夫	NPO法人関川水辺クラブ理事長	
齋藤 義信	上越農地協議会会長	
高橋 信雄	上越商工会議所会頭	
中川 幹太	上越市長	
中出 文平	長岡技術科学大学教授	
細山田 得三	長岡技術科学大学教授	
山縣 耕太郎	上越教育大学教授	
横田 清士	(一財)上越環境科学センター 理事 センター長	



流域委員会開催状況

委員からの主な意見は裏面へ



小池委員長挨拶



事務局挨拶



傍聴席(別室)状況

【委員からの主な意見】

- 放水路建設の事例については、「コミュニティ意識が継続できたか」「できないにしても何かしらの手当ではあったのか」などを住民に丁寧に説明して欲しい。
- 津波について、「総合的な津波対策をしっかりと示すこと」と「L2津波の考え方、東日本大震災で経験したような施設規模を上回る外力が生じる可能性があるということ」を住民に理解いただくことをお願いしたい。
- まちづくり検討の進め方は、次世代を担う若い世代を対象としたワークショップの開催等、丁寧に地元との意見交換を真摯な形で行える仕組みが必要である。
- 「流域治水」について、「企業活動についても考えて欲しい」「営農活動と洪水対策がどう対応しているか」「ソフト対策をしっかりと進めて欲しい」などの意見があり、それぞれの観点の意見を聞き、連携しながら進めていくこと。



【今後の進め方】 これからの流域委員会は、下のように進めていくこと了承されました。

流域委員会の進め方



■ できるかぎり多くの流域住民の皆さんの意見を河川整備に反映していくため、流域委員会で気候変動を踏まえた検討結果や流域治水、まちづくりについて議論を行っていく。

令和2年度

第21回流域委員会

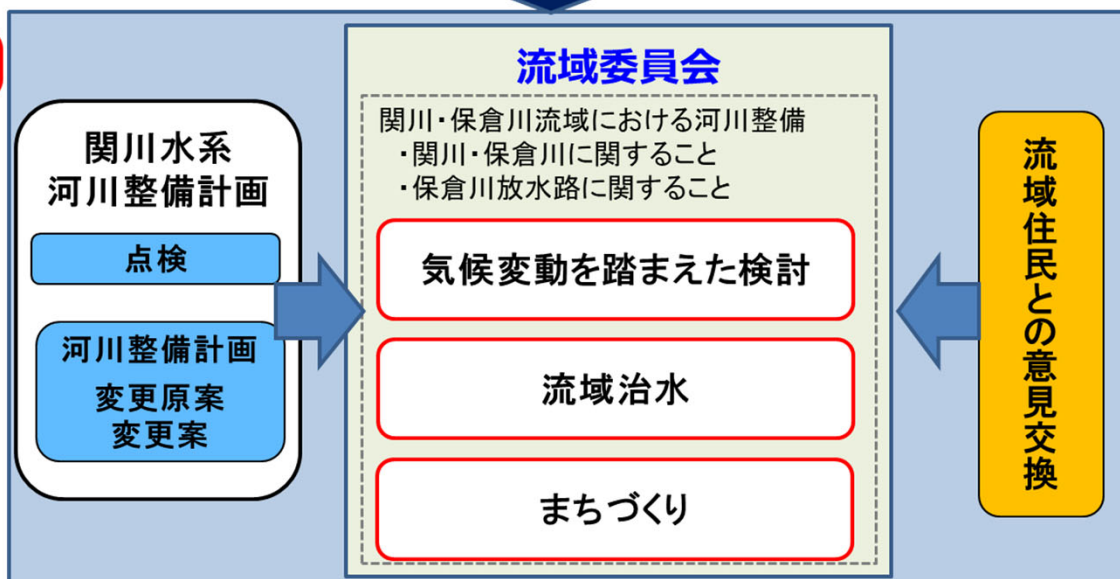
- 意見募集・住民説明会結果とその対応について
- 今後の進め方(案)について

令和3年度

第22回流域委員会

- 前回委員会からの進捗状況等
- まちづくり検討の進め方について
- 関川流域の治水安全度向上に向けて

令和4年度～



第22回関川流域委員会 資料4より抜粋

